大岡實建築研究所作品見学履歴

令和7年7月7日 現在

日時	物件名	コメント
平成22年1月29日	浅草寺本堂(観音堂)(台東区)	耐震改修工事中であった/工事中の屋根まで登って見ることができたが、その大きさに圧倒されるほどであった
平成22年3月13日	延命寺本堂(逗子市)	社寺建築研究会の第1回目の見学会であり、どんな按配になるのかと思っていたが、本堂の圧倒的に素晴らしい姿に皆感心しきりであった/また、当時の住職の娘さんのヒアリングが出来たが、「屋根の形が非常に美しく、鳥が上空で羽ばたいているように感じている」との言葉が印象的であった/数年前に耐震対策をしたとのことで、塗装も綺麗になっていた
平成22年4月3日	ロンドン仏舎利塔(ロンドン)	現地調査員/松浦隆
平成22年4月11日	法蔵院本堂(横須賀市) 長安寺本堂(横須賀市)	現住職(当時の住職でもある)と面談 大岡作品の特徴の一つである鍔葺屋根を目の当りにし、非常に感動的であった/綺麗に保たれていた 庫裏、客殿も軒先だけではあるが本瓦を葺いた軒反りが、大岡實建築研究所独特のゆったりとしたものとなっているのが見てとれた 木造の山門は社寺建築工務所とのコラボ ここの鍔葺屋根であったが、その姿の美しさは追隨を許さないものがあるように感じた/綺麗に保たれていた
平成22年5月16日	眞光寺本堂(横浜市) 雷神社社殿(横須賀市)	ここの鍔葺屋根であったが、上下の屋根のかぶり具合が端部で口が開き過ぎていて、鍔葺形式における初期の試行錯誤の様子のみでとれた 小ぶりだが何とも言えぬ平安朝の麗しさをもつ社殿となっていた/塗装がかなり劣化しており、早期の手当てが望まれる
平成22年5月26日	石浜神社真先稲荷社(荒川区)	既に取り壊されている/石浜神社本殿は伊東忠太の設計
平成22年6月27日	穴守稲荷神社社殿(大田区) 宝幢院大日堂(大田区)	現在の住職さんと面談/耐震化の必要性は理解されているようだった 木造による小振りなお堂であった
平成22年7月11日 ~12日	聖光寺本堂(茅野市) 高島城天守・冠木門・角櫓(諏訪市)	当時の住職さんの娘さんと面談/鍔葺の屋根は別としてその姿形は一見して大岡實の好み、法隆寺金堂のイメージであった 側面から見た鍔葺の屋根は屹立性が高く、上下の屋根のかぶり具合は綺麗に納まり、ここに鍔葺屋根の手法が完成したように感じた 木造の鐘楼も安田工務店とのコラボ 城内には三之丸御殿裏門(御川渡門跡)ほか沢山の史跡も残されていて、城跡散策にもってこい
平成22年7月24日	龍宝寺本堂(鎌倉市) 法安寺本堂(横浜市)	現住職(先代の住職が当時の住職だったようだ)と挨拶するも、忙しらしく話を聞けず/大岡作品のなかでも数少ない木造の大型物件で、禪宗の寺院から禅宗様のスタイルとなっており、中世の花頭窓も採用されている 当時の住職さんの娘さん(現住職)と面談
平成22年8月7日 ~9日	光厳寺本堂(富山市) 宗林寺光寿無量院本堂(金沢市) 金沢仏舎利塔(金沢市)	現住職の奥さんと面談/大岡實の最初期のコンクリートでどのように寺院としての形を表現するかといった実験的な物件で、軒裏の垂木などの取り扱い方に非常にインパクトを覚えた/内部空間も天窓から日差しが入り込むものとなっており、お決まりの物とは衝撃的に違う意味、モダンな印象を受けた 一見にしてまさに法隆寺夢殿 兼六園からもその姿が見える
平成22年8月29日	泉谷寺本堂(横浜市) 神奈川県立博物館(旧横浜正金銀行)ドーム(横浜市)	当時の住職の奥さんと面談 街中の高い建物群の中にあり、写真が撮りづらかった
平成22年9月19日	鬼王神社幣拝殿(新宿区) 氷川神社社殿(港区) 増上寺大殿(港区)	本殿は既存のもの(大岡作品ではない)と思われる 場所柄から外装の吹付の汚れが目立つ 大岡先生の基本設計図(アイディア)は残っているが、現存する物は軒反りなどの肝心の扱いは大岡作品とは似ても似つかない物だった 東京タワーをバックに堂々たる姿は人々を圧倒する力をもつ/ 大岡先生の遺稿に、目論見とは違ったデザインにされてしまったとある「高欄」を見るにつけ、確かにアクセントになるべき「高欄」がもの足りなさを感じさせるが、それによってこの大殿の素晴らしさを否定するものではないことは言うまでもない

平成22年10月12日 ～14日	大安寺収蔵庫(奈良市) 薬師寺金堂(奈良市) 興福寺国宝館・菩提院(奈良市) 法隆寺羅漢堂(生駒郡斑鳩町)	<p>奈良六大寺の一角、大安寺の境内は非常に小さいものであった</p> <p>東塔や西塔、講堂などの伽藍の中にあつてその堂々たる金堂はそのボリューム感からも一際異彩を放っていた</p> <p>国宝館に陳列してある阿修羅像は素晴らしい一言/ 菩提院は興福寺境内から少し離れたところにあつた/大岡先生はその大御堂(木造)を復元修理し、内陣のみコンクリート造で耐火構造とした/この手法は後年の薬師寺金堂にも共通することとなる</p> <p>周りの塀が高くて写真が撮りづらかつた</p>
平成22年10月31日	医王寺本堂(世田谷区) 深沢神社社殿(世田谷区)	<p>本堂の他に客殿、庫裏も設計しているが、現存のものはそれとは違うようだ</p> <p>現住職(当時の住職)のご家族と面談/本殿の周りは木立に囲まれ写真が撮りづらかつた</p>
平成22年11月28日	光明寺庫裡・客殿(鎌倉市) 泉光院本堂(鎌倉市)	<p>境内には本堂(重要文化財)や山門(神奈川県文化財)など見所が沢山ある</p> <p>現住職と面談/耐震化の必要性は理解されているようだった</p>
平成22年12月19日	東江寺本堂(葛飾区) 素戔雄神社幣拝殿(荒川区)	<p>現住職さんと面談</p> <p>当時の住職さんの息子さん(現住職)と面談</p>
平成23年1月30日	井草八幡文華殿(杉並区) 東郷寺本堂(府中市)	<p>大岡先生の楼門のスケッチが残っているが、現存の物は似ているが大岡作品ではない</p> <p>現住職さんと面談/大岡先生の基本設計図(アイデア)は残っているが、現存する物は二階建てから一階建てに変更されてしまっている</p>
平成23年2月27日	川崎大師大伽藍(川崎市) 稲毛神社社殿・大鳥居(川崎市)	<p>境内のほとんどの建物が大岡實建築研究所の作品</p> <p>現住職さんと面談/耐震化の必要性は理解されているようだった</p>
平成23年3月16日	松前城(松前郡松前町)	<p>現地調査員/松浦隆</p>
平成23年4月21日	称名寺反橋・平橋(横浜市) 三殿台遺跡収蔵庫・遺跡覆屋(横浜市)	<p>丁度桜の綺麗な時期で、華やかな苑池と庭園であつた</p> <p>三殿台遺跡考古館の敷地には縄文・弥生・古墳時代の竪穴式住居などの遺構も展示されている</p>
平成23年5月22日	真楽寺本堂(沼津市) 本能寺本堂(沼津市) 田子浦仏舎利塔(富士市)	<p>既に取り壊され、他の建物が建っていた</p> <p>当時の住職さんの娘さん(現住職)と面談 東本願寺浅草霊堂と似た雰囲気を感じた 現住職さんと面談</p>
平成23年6月5日	延命地藏尊本堂(中央区) 川崎大師東京別院薬研堀不動院(中央区)	<p>ビルの谷間に佇む日本橋西河岸地藏堂</p> <p>現住職さんと面談/多宝塔形式と思われる本堂</p>
平成23年6月13日	中尊寺金色堂新覆堂(西磐井郡平泉町)	<p>平成23年6月26日に世界遺産となった中尊寺金色堂の覆堂</p>
平成23年6月26日	世界救世教神殿(熱海市)	<p>外部軸組、斗拱が石造であることにビックリ</p>
平成23年7月24日	西徳寺鐘楼(横須賀市) 信誠寺客殿(横須賀市)	<p>山門も同時に設計しているが未だに未着工</p> <p>現住職さんの奥さんと面談</p>
平成23年8月28日	龍谷寺観音堂(南魚沼市)	<p>現住職さんの奥さんと面談 龍谷寺には実施案とは違う当初設計案の模型(石膏製)が保存されていた</p>

平成23年9月1日 ～15日	ロンドン仏舎利塔(ロンドン)	現地調査員/松浦千代子
平成23年9月23日	帝都仏舎利塔(西多摩郡奥多摩町)	外装の塗装は永く手が入られていないらしく劣化していた/早急の塗装替えが必要と思われる
平成23年9月26日 ～28日	念法真教金剛寺如来堂(大阪市) 高山寺本堂(紀伊田辺市) 観心寺収蔵庫(河内長野市) 延命寺本堂(河内長野市) 吉野仏舎利塔(吉野郡吉野町) 市場寺本堂(三重県伊賀上野市)	VIP対応で迎えていただいた 現住職さんの奥さんと面談 設計案を簡略化したものになっていた 木造の本格的な本堂 直前の台風による災害(道路寸断)のため、金剛峰寺付近から遠目で眺めることしかできなかった/リベンジを誓う 村の小さなお堂といった感じであった/当初は収蔵庫として建てられたもの
平成23年11月10日	清水寺本堂(長野市)	現住職さんの奥さんと面談/山里深い地に当初は収蔵庫として建てられたもの
平成23年11月30日	宝城坊収蔵庫(伊勢原市) 龍口仏舎利塔(藤沢市)	当時の住職の奥さんと面談 名利龍口寺の裏山に建つ
平成23年12月23日	清澄仏舎利塔(鴨川市)	近くにある誕生寺仏舎利塔(日本山妙法寺の仏舎利塔であるが大岡作品にはなっていない)も見学したが、その姿は大岡作品の仏舎利塔に非常に良く似たもので、設計図の流用が行われたのかもしれない
平成24年4月19日	聖光寺本堂、高島城天守・冠木門・角櫓 再調査	
平成24年8月8日	釧路仏舎利塔(釧路市) 定光寺山門(釧路市)	現地調査員/松浦隆 同上
平成24年9月25日	霊友会弥勒山伽藍一式(賀茂郡東伊豆町)	残念ながら霧中につき良く見えなかった
平成24年10月21日	甲府仏舎利塔(甲府市)	かなり汚れており、再塗装が必要と思われる
平成24年12月19日	深沢神社社殿、医王寺本堂 再調査	
平成25年2月11日 ～13日	仙台仏舎利塔(仙台市) 中尊寺金色堂新覆堂 再調査	見学している際にも信者の方々がお参りに来ていた
平成25年3月25日	覚園寺須弥壇(鎌倉市)	特別に写真撮影させていただいた
平成25年4月3日	雷神社社殿 再調査	
平成25年4月10日	東江寺本堂 再調査	
平成25年5月15日 ～17日	釈王寺本堂(東かがわ市) 高山寺収蔵庫(京都市) 姫路仏舎利塔(姫路市) 宝塚仏舎利塔(宝塚市)	現住職と面談/大岡先生が生前の最後に設計した作品で、しかも木造の建物/寄棟造りからか当麻寺本堂(曼荼羅堂)のイメージ 鳥獣戯画で有名な京都高山寺境内にある 唯一、日本山妙法寺依頼ではない仏舎利塔/姫路市内の高台に建っている/幾つもの仏舎利塔が群をなして建っている 仏舎利塔の基壇上からは眼下に宝塚市内が見渡せた
平成25年6月2日 ～3日	龍谷寺観音堂 再調査 佐渡仏舎利塔(佐渡市)	ジェットフォイルに乗って両津港に着くと正面の山の中腹で仏舎利塔がお出迎え

平成25年8月12日	坂上仏舎利塔(飛騨市)	レンタカーで延々と山の中へ向かうとやっと出会えた
平成26年2月17日 ～20日	当麻寺松室院客殿(松宮院書院)(葛城市)	登録有形文化財(建造物)となっている
平成26年4月10日	法蔵院本堂、穴守稲荷神社社殿 再調査	
平成26年5月12日 ～16日	臼杵仏舎利塔(臼杵市) 牛津仏舎利塔(小城市) 仙酔峽仏舎利塔(阿蘇市) 大村仏舎利塔(大村市) 長崎仏舎利塔(長崎市) 天草仏舎利塔(天草市) 日向仏舎利塔(日向市) 別府仏舎利塔(別府市)	九州仏舎利塔をまるごと見てみようと思気込む/金沢仏舎利塔と同じ数少ないスタイル 仏舎利塔からは小城市から佐賀市までが一望できた 藤井日達上人から「宝塔中の宝塔である」と賞賛された仏舎利塔 仏舎利塔からは大村市街地や長崎空港が一望できた 仏舎利塔からは長崎の市街が一望できた 近くにある日本山妙法寺の本堂(道場)が仏舎利塔を守っている 日向市日知屋の櫛ノ山の山頂に白い仏舎利塔が聳える 九州の関ヶ原といわれる黒田軍と大友軍が戦った石垣原の戦いの際に黒田軍が布陣した実相寺山に建っている
平成26年6月1日 ～3日	宗林寺光寿無量院本堂 再調査	
平成26年6月23日	千歳仏舎利塔(千歳市) 札幌仏舎利塔(札幌市)	現地調査員/松浦隆 現地調査員/松浦隆
平成27年5月28日	泉光院本堂、龍宝寺本堂 再調査	大岡實のスケッチが残る福泉寺本堂(横浜市)も合わせて見学
平成27年11月23日 ～26日	吉野仏舎利塔(吉野郡吉野町) 当麻寺松室院客殿(松宮院書院) 再調査	遂にリベンジ達成！/美しい宝塔形式のデザイン
平成31年2月1日	ロンドン仏舎利塔	イタリア旅行の往路、欧州が雪による悪天候のため、急遽予定の無いロンドン・ヒースロー空港に着陸/一晩を明かすことになり、その時間を利用して、天の声に導かれるように小雪のチラつく中をパタシー公園に向かった/その日は小生の誕生日でもあった
令和1年9月2日	美浜仏舎利塔(福井県三方郡美浜町)	塗装が劣化し薄汚れていて、再塗装が望まれる状況であった
令和1年9月3日	舞鶴仏舎利塔(舞鶴市)	事前情報では、塗装が相当劣化しているようだったが、真新しい再塗装が施されていた！
令和1年11月20日	中尊寺金色堂新覆堂(西磐井郡平泉町)	晩秋に小雪のチラつく情緒たっぷりの景色に溶け込んだ新覆堂を見ることができた
令和3年4月14日	法蔵院本堂他(横須賀市) 長安寺本堂他(横須賀市)	三浦半島界隈の大岡作品見学会として再訪
令和3年4月15日	雷神社社殿(横須賀市) 西徳寺鐘楼(横須賀市) 信誠寺庫裏・客殿(横須賀市) 常勝寺本堂他(横須賀市) 称名寺反橋平橋復元	三浦半島界隈の大岡作品見学会として再訪
令和3年4月16日	光明寺庫裏・書院(鎌倉市) 逗子延命寺本堂(逗子市)	三浦半島界隈の大岡作品見学会として再訪

令和5年11月30日	龍寶寺本堂他(鎌倉市)	数少ない木造物件の大岡作品として、貴重なものであることを再認識
令和6年4月16日	高島城(諏訪市)	城址公園の桜が満開の中、大勢の観光客が訪れており、天守は一際美しい姿を見せていた
令和6年4月25日	逗子延命寺本堂(逗子市)	以前に見学した際の写真が今一つ上手く撮れていなかったが、リベンジできた
令和6年11月19日	穴守稲荷神社社殿他(大田区) 稲毛神社社殿他(川崎市)	綺麗にリニューアルされていたが、別宮が解体されて他者設計の物に置き変わっていた 平成25年に、大岡寛建築研究所 M.A.設計室が耐震設計を実施し、リニューアルされて綺麗になっていた
令和7年5月23日	興福寺国宝館(奈良市) 興福寺菩提院大御堂(奈良市) 興福寺仮金堂(仮講堂)(奈良市) 薬師寺金堂(奈良市)	平成29年に耐震改修済み 左上には令和の大修理中の五重塔の覆屋が見えた 平成30年に中金堂が再建されたため、仮金堂改め仮講堂となった 東塔も平成の大修理を終えて綺麗になっていた

※ 大岡寛博士は昭和62年12月7日に逝去し、その業績の遺物は全て川崎市立日本民家園に寄贈され保管された。ただ、大岡寛建築研究所はその後業務を続ける必要があったために新築物件の図面は助手の松浦弘二の手元に残った。その松浦弘二も平成16年10月2日に逝去した。その手元には新築物件の図面の他に若干の遺物(写真や資料)があった。その後、大岡寛建築研究所の業績を後世に伝えるべく、その作品を紹介するためのホームページを立ち上げることとなった。それに際し、有志による「社寺研究会」を結成し、まずは松浦弘二の手元に残された遺物を参考に、その作品を全て見て回ることから始めることにした。これはその見学履歴である。

概ね、6年近くの時間をかけて全国に所在する作品を見て回ったのであるが、そこでは現在でもその作品を大切に使用されている関係者の方々の生の声に接することが出来た。建立時の当事者でもない私たちが大岡寛建築研究所の関係者であることを告げると、皆さんが感謝の意を表してくださったことは望外の喜びであった。これらの作品が今後も永く使われ残って行くことを願うものである。ちなみに、紀伊田辺市の高山寺さんからはその後、御住職から耐震リニューアルの相談があり、微力ながらそのお手伝いすることが出来た。下記にその記録を紹介する。(平成28年2月7日記)

<http://www.ohoka-inst.com/taishinshindann.html>